

安芸市伊尾木・下山地区

地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月10日（火）14:00～16:00

2. 実施場所：安芸市立伊尾木公民館2階ホール（安芸市伊尾木195番地1）

3. 参加者：地域の担い手等（9名）
JA高知県安芸営農経済センター等（1名）
高知県安芸農業振興センター（2名）
安芸市農業委員会（1名）
安芸市農林課（1名）

計14名

4. テーマ：「伊尾木・下山地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

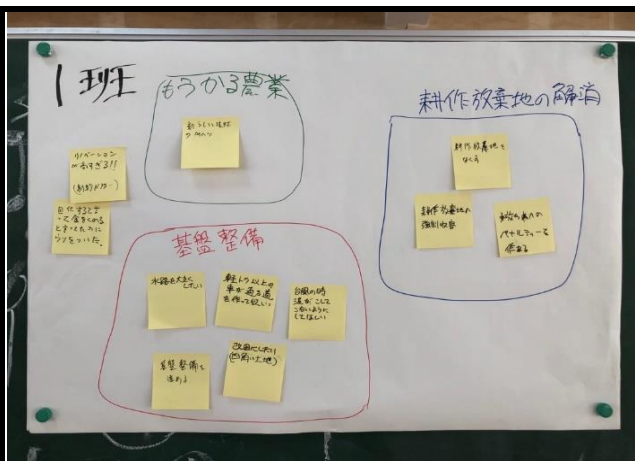
- ・耕作放棄地の問題は、行政機関が積極的に関与しないと解消されない。
- ・下山地区の海岸は砂浜が浸食され、台風時には農地への高波被害が多く、また、水の問題もあって国道南側の農地は耕作放棄地だらけになっている。
- ・農地の保全管理（草刈）を有償で引き受けているが、手間や資材高騰などを考えると全く見合っていない状況。
- ・伊尾木地区では過去に基盤整備の計画があったが、最終的には実現していない。
- ・環境制御機器が高額で、補助金活用のための制約（要件）も多過ぎる。
- ・資材高騰でハウス新設が難しく、空きハウスも見つからない状況。
- ・基盤整備によりハウス周辺の道を広くしてほしい。
- ・昔は露地オクラで夏場の収入を得ていたが、単価も下がって採算が合わない。
- ・米や野菜の販売価格を上げる取組が急務。

②課題解決に向けた取組

- ・耕作放棄地となっている農地の固定資産税率を上げるなど、所有者にペナルティを課すことで農地の保全管理に向けた意識啓発を行う。
- ・市が耕作放棄地を強制収用し、営農意欲のある農業者へ作業委託する。また、収穫した農作物はふるさと納税の返礼品として活用する。
- ・耕作放棄地の解消に向け、下山地区などの遊休農地へJAが新規就農者用のレンタルハウスを整備する。
- ・市の職員が土日を利用して農作業を行い、耕作放棄地の解消を図る。
- ・ナスの新品種や新たな技術を導入した儲かる農業を実現して担い手を確保する。
- ・露地栽培で新しい品目を栽培し、振興作物として市が販路を開拓する。
- ・基盤整備により作業効率の高い生産基盤をつくる。（道路、水路等）
- ・基盤整備に向けた情報共有や地域内の農地について話し合う場を設ける。
- ・ハウスの賃借情報を取りまとめて地域の担い手を増やす。

【座談会の様子】

《第1班》



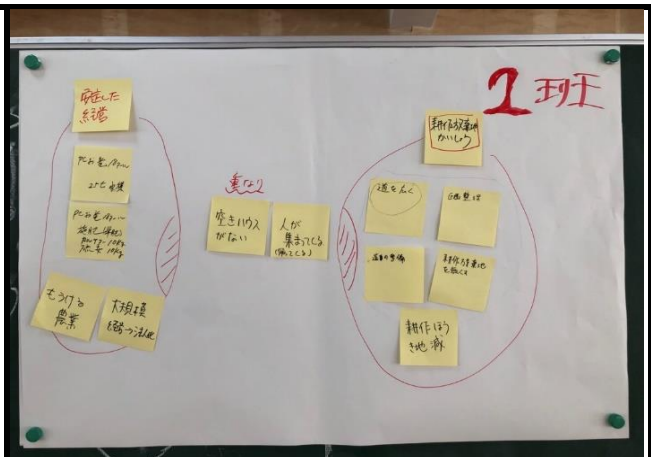
テーマ		伊尾木・下山地区が目指す農業の将来像
第1班		
No.	こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1	耕作放棄地をゼロにする。	・農業用が借り入れる。 ・放棄地へのペナルティを作る。
2	基盤整備をすすめる。	・強制的な基盤整備の実施。 ・農道と用水路の整備。 ・台風による浸水がこたえよう、テラレと置く。
3	もうかる農業を実現する。	・新しい技術などの開発・導入



■班内で出された意見■

- ・耕作放棄地を解消するため、所有者へペナルティを課す。（固定資産税の税率アップ等）
- ・耕作放棄地は市が強制収用して、市が耕作する意欲のある者へ委託する。
- ・下山地区の海岸沿い（国道南側）農地は水が届かないため借り手がない。また、名義変更していない農地が多く、貸し借りのハードルが高い。
- ・同地区では台風等の際に高波被害があるため対策が必要。昔は園芸ハウスもあったが、今は移転して耕作放棄地ばかりになっている。
- ・新規就農者用のJAレンタルハウスを下山地区の耕作放棄地に整備していけばどうか。
- ・耕作放棄地の解消には今以上に行政の関与が不可欠。確実に経費の方が上回る農地で、赤字覚悟で耕作しろと農家に言えるのか。赤字分を市が負担すれば農地は維持される。
- ・市の職員が土日の休日を利用して、耕作放棄地を管理すればどうか。
- ・農地の管理（草刈）を有償で引き受けているが、手間や経費を考えると見合っていない。
- ・伊尾木地区で基盤整備を進め、軽トラ以上が通れる道や水路を整備してほしい。
- ・新しい栽培技術を開発して儲かる農業を実現する必要がある。
- ・環境制御機器が高額過ぎる。また、補助金を活用する場合の制約が多過ぎる。
- ・畑地化支援では後出しで要件が次々変わって支援金もなく騙された気分。

《第2班》



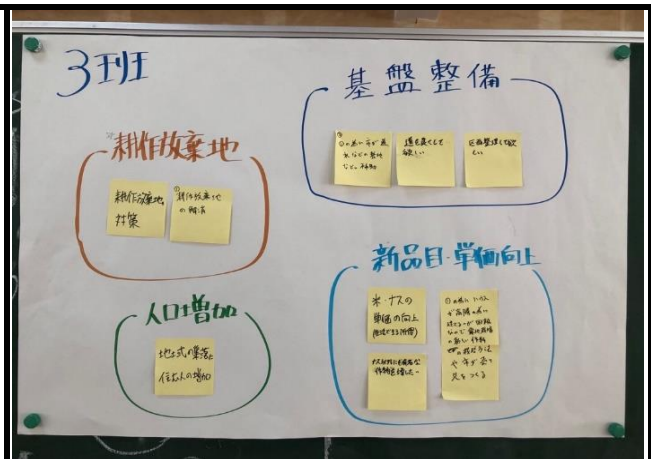
テーマ 伊尾木・下山地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No. 1	こんな地域農業を実現したい！
No. 2	実現するための方法
1	耕作放棄地をなくす 農地保全管理をする
2	安全な経営
3	



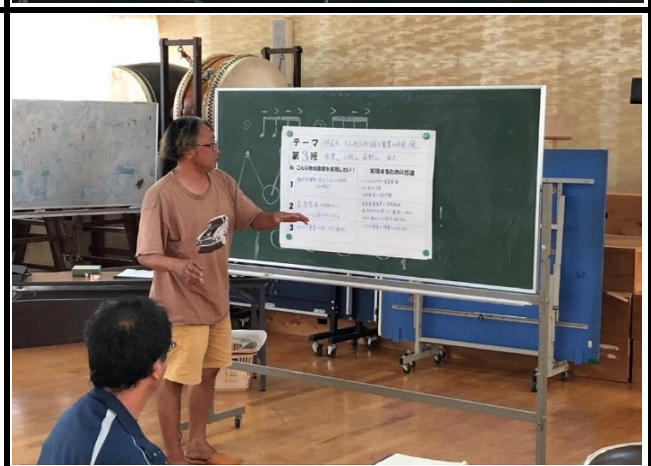
■班内で出された意見■

- ・大規模経営農家の法人化を進めて、経営の安定化を図る。
- ・資材高騰でハウス新設が難しいが、空きハウスもない状況。
- ・ナスの新品種や新たな技術を導入して儲かる農業を実現すれば、後継者も市外から帰ってくるし、若い人も集まってくる。
- ・伊尾木地区では以前に基盤整備の計画があったが、最終的に農舎の取扱いなどで話がまとまらずに頓挫した経過がある。
- ・区画整理してハウス周辺の道を広くしてほしい。
- ・昔は収入が減る夏場にオクラを栽培していたが、近年は外国人実習生を多く受け入れる農家が手の空く夏場にオクラを作り出して単価が下がったので、作付けをやめてしまった。

《第3班》



テーマ 伊尾木・下山地区が望む農業の将来像	
第3班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 耕作放棄地 減少したい地域 (与那国)	・ハウスを作り切り基盤整備 ・米・道々を整 ・米作農家の減少対策
2 基盤整備の実施による ハウスの建てやすくなる	基盤整備事業の情報提供 ・農家が土地を買いとる整備して欲しい ・地域の農地について話し合う場を作る
3 地域の農業の担い手を増やす	・ハウスの整備の情報のとらえとめ



■班内で出された意見■

- ・生活していける農業所得を確保するため、米やナスの単価を向上させる。
- ・農業資材の高騰で園芸用ハウスを新設するのが難しいため、露地栽培で新しい品目を栽培、振興作物として市が販路を開拓する。
- ・露地栽培しやすいように市が整地や水路、道整備などの補助制度をつくる。
- ・伊尾木地区では場整備を行い、ハウスを建てやすい区画にして道を広げてほしい。
- ・県や市が農地を買い取って整備してほしい。
- ・基盤整備に向けた情報共有や、地域内の農地について定期的に話し合う場を設ける。
- ・稲作農家の減少対策を講じる必要がある。
- ・米や野菜の販売価格を上げる取組が急務。
- ・ハウスの賃借情報をとりまとめて地域の担い手を増やす。
- ・耕作放棄地を現在の半数程度に減少させたい。